

中小企業景気動向調査

〔2010年4～6月期の景況/7～9月期の見通し〕

結果概要

4～6月期の景況

- ・ 景況感は4四半期連続で改善したが、改善幅は小さい。
- ・ DIは依然としてマイナス。リーマンショック時をやや上回る水準にとどまっている。
- ・ 機械器具部品の改善、自動車部品の悪化が目につく。
- ・ 売上額・収益は、ともに製造業で上向きに転じている。
- ・ 残業時間は製造業で増加。非製造業では減少傾向が弱まっている。
- ・ 人手余剰感に残っているが、緩和されつつある。設備の過剰感は依然残っている。

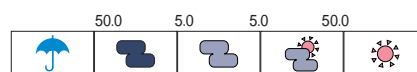
7～9月期の見通し

- ・ 景況感の見通しは横這い。今後の経済情勢を懸念し、先行き慎重な見方が大勢。
- ・ 人手と設備の過剰感は引き続き緩和傾向に。

業種別天気図（業況判断DIによる）

業種	前期 (1～3月期)	今期 (4～6月期)	見通し (7～9月期)	業種	前期 (1～3月期)	今期 (4～6月期)	見通し (7～9月期)
全産業	46.6	45.2	45.8	印刷	25.0	15.4	46.1
製造業	40.9	39.2	39.8	食料品	48.4	33.3	43.3
非製造業	51.4	50.2	50.8	卸売業	55.4	53.6	49.6
自動車部品	8.9	32.0	32.3	小売業	51.5	44.2	55.0
機械器具部	60.8	42.4	42.8	飲食業	76.9	76.0	79.2
金属製品	62.5	56.3	54.8	建設業	58.5	64.7	58.7
窯業・土石	57.2	47.4	42.1	不動産業	28.9	34.1	45.3
木材・木製品	53.3	50.0	57.1	運輸業	30.5	38.2	47.0
繊維製品	46.4	34.5	37.9	サービス業	48.8	35.7	34.1

数値は業況判断DI



業況判断

〔全産業〕

企業の景況感を表す**業況判断DI**(業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値)はマイナス45.2となり、前期(1~3月期・マイナス46.6)に比べ1.4ポイント改善した。改善は4四半期連続だが、改善の幅は小さい。

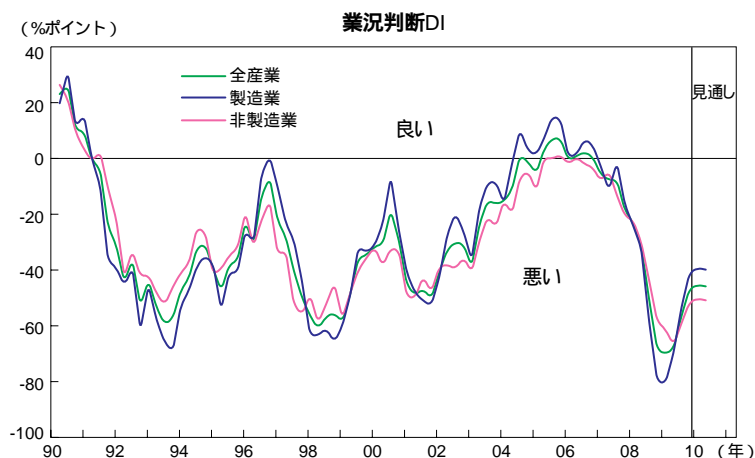
	前期	今期	見通し	変化幅			
	〔1~3月期〕	〔4~6月期〕	〔7~9月期〕	前期	今期	今期	見通し
全産業	46.6	45.2	45.8	1.4		-0.6	
製造業	40.9	39.2	39.8	1.7		-0.6	
非製造業	51.4	50.2	50.8	1.2		-0.6	

(単位：%ポイント　　はマイナス)

- ・ **機械器具部品、食料品、サービス業**などが10ポイント以上改善したが、**自動車部品、運輸業、建設業**などが悪化し、それを打ち消す格好となった。全体として景況感は横這いで推移した。
- ・ DIのマイナス幅は依然として大きく、リーマンショックで景気が急減速した2008年10~12月期(マイナス50.8)をやや上回る水準にとどまっている。
- ・ 7~9月期の**業況判断見通しDI**はマイナス45.8と、ほぼ横ばいの見通しとなっている。
- ・ 欧州の財政不安や為替の円高などの影響、あるいは回復の遅れている家計所得や雇用情勢の影響を懸念する声もでており、先行き慎重な見方が大勢を占めている。

〔製造業〕

- ・ **業況判断DI**はマイナス39.2。前期(マイナス40.9)に比べ1.7ポイント改善した。
- ・ DIの水準は依然として低く、全業種が水面下の状態にある。
- ・ **自動車部品**を除くほとんどの業種でDIが改善。**機械器具部品**や**食料品**の改善幅が比較的大きい。
- ・ **機械器具部品**は、機械受注(とくに外需)の好調に支えられた面があり、景況感の底入れがみられる。ただし、水準はまだ低い。
- ・ **自動車部品**の悪化は、トヨタ自動車のリコール問題に絡む在庫調整の影響が多少出たのではないかと。
- ・ **業況判断見通しDI**はマイナス39.8。0.6ポイントの悪化が見込まれている。



〔非製造業〕

- ・ **前年同期比収益DI**はマイナス23.8。前期（マイナス38.6）に比べ14.8ポイント改善した。
- ・ **前年同期比収益DI**はマイナス24.9。前期（マイナス35.3）に比べ10.4ポイント改善した。

資金繰り

〔全産業〕

- ・ **資金繰りDI**（資金繰りが3カ月前と比べ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス19.9となり、前期（マイナス20.3）に比べ0.4ポイント上昇した。
- ・ **資金繰り見通しDI**はマイナス20.7。

〔製造業〕

- ・ **資金繰りDI**はマイナス17.3。前期のマイナス20.0に対し、2.7ポイント改善した。
- ・ **資金繰り見通しDI**はマイナス18.5と、やや悪化の見通しとなっている。

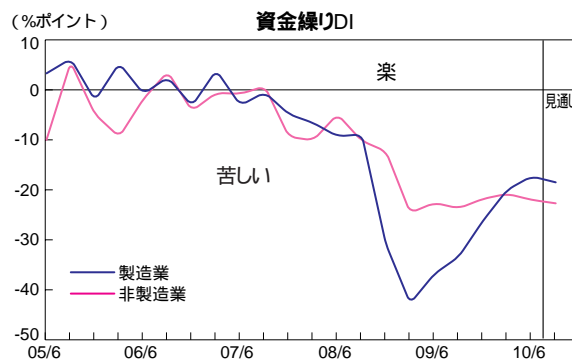
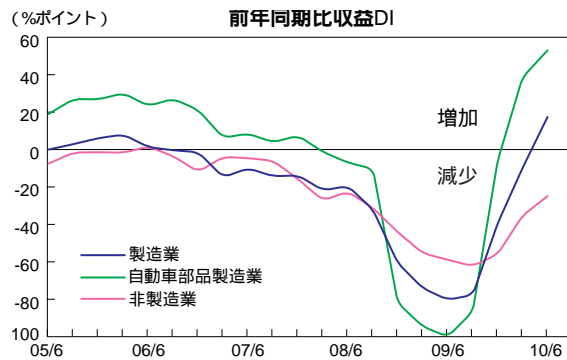
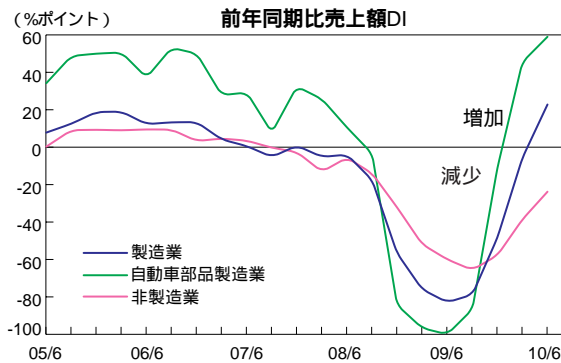
〔非製造業〕

- ・ **資金繰りDI**はマイナス22.0。前期のマイナス20.8に比べ、1.2ポイント悪化した。
- ・ **資金繰り見通しDI**はマイナス22.7と、0.7ポイントの悪化を見込んでいる。

雇用

〔全産業〕

- ・ **残業時間DI**（残業時間が3カ月前と比べ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス7.3と、前期（マイナス10.6）に比べ3.3ポイント上昇した。
- ・ 残業時間の減少は続いているが、傾向は弱まっている。



設備

〔全産業〕

- ・ **設備過不足DI**（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）は6.5となった。前期（8.6）に比べ、2.1ポイント低下した。
- ・ **設備過不足見通しDI**は5.7。
- ・ 4～6月期に**設備投資（リース・レンタルを含む）を実施**した企業は22.3%と、前期（26.2%）に比べ3.9ポイント低下した。
- ・ 7～9月期に**設備投資の実施を計画**している企業は22.1%となっている。

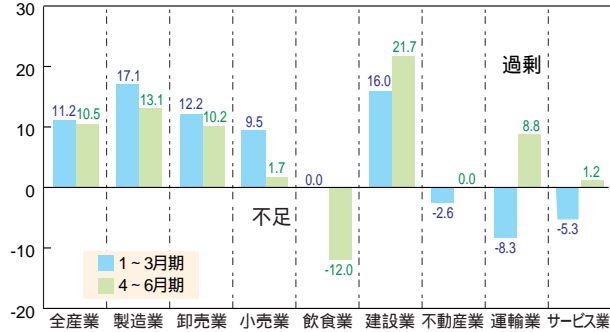
〔製造業〕

- ・ **設備過不足DI**は14.5となり、前期（17.7）に比べ3.2ポイントの低下。
- ・ **設備過不足見通しDI**は14.1となっている。

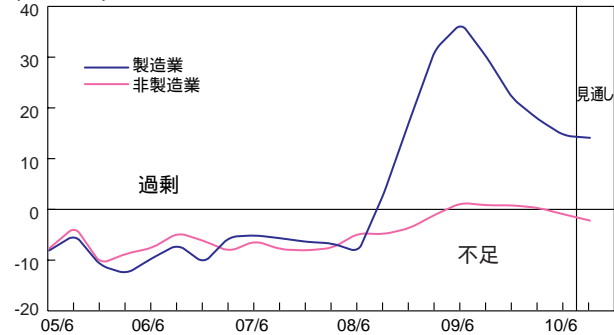
〔非製造業〕

- ・ **設備過不足DI**はマイナス1.0となり、5四半期ぶりに「不足」の状態となったが、前期（0.3）とほぼ同じ水準である。
- ・ **設備過不足見通しDI**はマイナス2.2となっている。

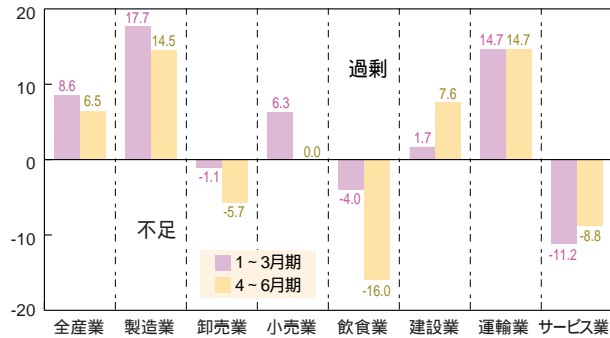
業種別人手過不足DI



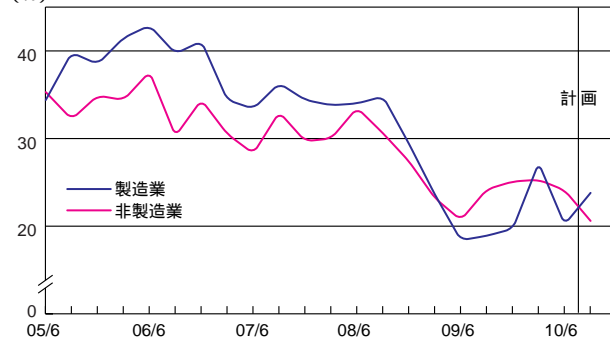
設備過不足DI (%ポイント)



業種別設備過不足DI

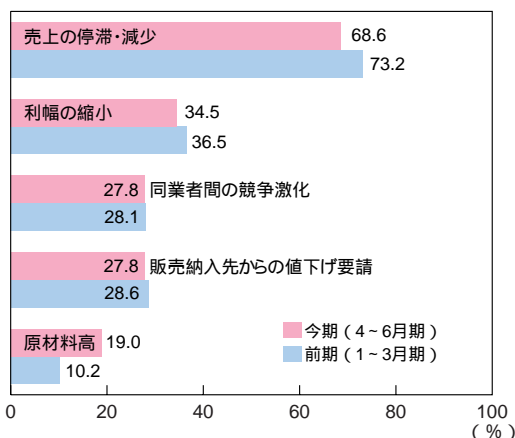


設備投資実施割合 (%)

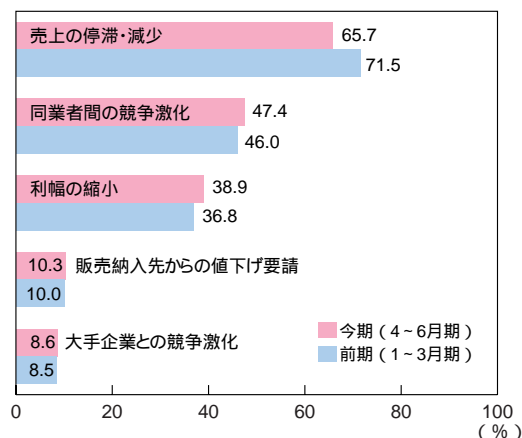


経営上の問題点

製造業

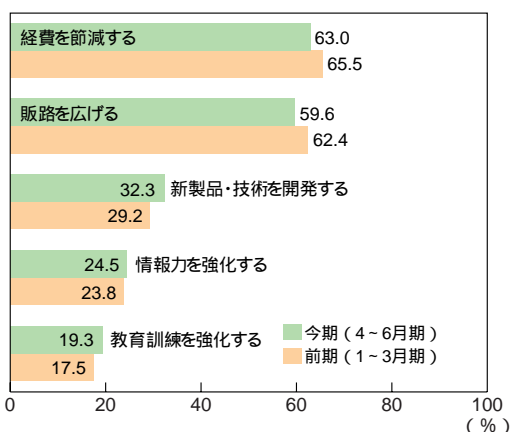


非製造業

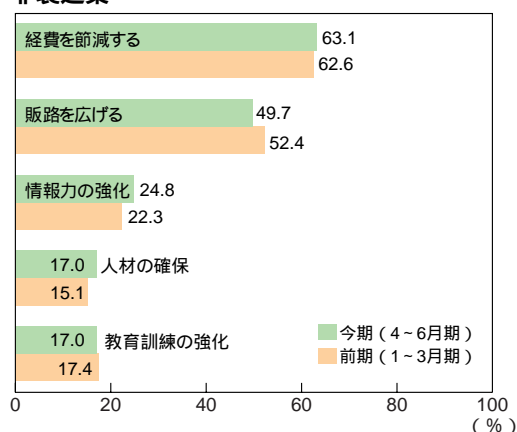


当面の経営重点施策

製造業



非製造業



【調査要項】

実施期間: 2010年5月25日 ~ 6月10日

調査対象: 県内の当金庫のお取引先950社 (下記参照)

調査方法: 郵送および面談によるアンケート調査

分析方法: 業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」(増加など)と答えた企業割合から「悪い」(減少など)と答えた企業割合を差し引いた値 (DI: Diffusion Index) を中心に分析

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
対象先数	426	119	70	29	127	48	39	92	950
回答数	393	113	67	25	120	45	36	85	884
回答率 (%)	92.3	95.0	95.7	86.2	94.5	93.8	92.3	92.4	93.1